



知事宣言要請しかし

自民党は総裁選を9月17日告示、29日投票の日程で行う方向だ。選挙戦になれば9月中の解散は難しいが、10月に感染を抑えられている保証はない。与党内には解散が国民から「選挙優先」と映る不安がある。首相が解散しない場合、首相が解散しない場合、

衆院選を巡り与党内から、首相が解散権を行使しない任期満了選挙を求める声が出ている。新型コロナウイルスの感染状況が改善しない中で大々的に解散表明すれば、かえって政府の失策が際立ち、批判を浴びかねないとの理由。菅義偉首相は現時点で否定的だ。「コロナ対策に腐々と取り組む中で任期満了選挙なら、ルールなので仕方ない」と説明している。与党内関係者は最近、首相にこう進言したという。

自民党の下村博文政調会長と高市早苗前総務相は19日、一階後援幹事長とそれぞれ党本部で会談し、菅義偉首相の任期満了選挙（9月30日）に伴う総裁選への立候補の意欲を伝えた。同日の岸田派会合では、岸田文雄前政調会長に出馬を求める声が相次いだ。

下村氏は「二階氏に『チャンスと可能性がある』とヤレシたい」と伝達。会談後、記者団に若手議員から立候補を促す意見があると説明する一方、「政調会長の任期の間は首相を最大限支援する」と強調した。

高市氏は「二階氏に『出馬する決意を固めた』と述べ、ある古賀誠元幹事長は19日

「二階氏は『しっかり頑張りたい』と伝えた」という。下村氏と共に、必要な国会議員20人の推薦を集められるかが焦点になる。

岸田派会合では「早急に立候補を判断し、表明すべきだ」との意見が出た。岸田氏は記者団に「総裁選は自民党が国民の声を聞き、幅広い選択肢をもつ政党である」と示す貴重な場だ」と強調。自らの対応は今後26日の総裁選日程の決定後に表明するとした。

一方、岸田派に影響力がある古賀誠元幹事長は19日

「二階氏は『しっかり頑張りたい』と伝えた」という。下村氏と共に、必要な国会議員20人の推薦を集められるかが焦点になる。

首相の急脚にもあるように、行っていないか」と述べ、解散に意欲を示した。歴代首相にとって解散は国家を率いる決意を示す大舞台だ。任期満了選挙は現在の公選法施行後、1976年の三木武夫首相時のわずか1回のみ。「三木おろし」で弱った政権基盤を立て直すため衆院解散を模索したが、党内の抵抗で断念し、自民は過半数を割った。当時議員秘書だった菅

「任期満了選挙」求める声 与党内から首相は否定的

公選法は衆院選を「任期が終わる日の前30日以内」と定める。今回の任期満了は10月21日。9月21日、10月20日が該当。総裁選を考えると、最も遅い日曜日の10月17日投票が現実的だ。

総裁選で下村氏と高市氏 二階氏に出馬意欲伝達

自民党の下村博文政調会長と高市早苗前総務相は19日、一階後援幹事長とそれぞれ党本部で会談し、菅義偉首相の任期満了選挙（9月30日）に伴う総裁選への立候補の意欲を伝えた。同日の岸田派会合では、岸田文雄前政調会長に出馬を求める声

「需要先細り」競争激化も

「札幌の店は一番の稼ぎ頭。情報が集まる中央区への出店で『点から面』の営業戦略を進めたい」。来年2月に5店を出す留萌信金の担当者はこう話す。初の進出は1990年。札幌の既存4店だけで全体の貸出金の5割、預金の2割を占める。「信金の中では進出が早かったのが営業基盤はできている」といい、アパートローンを含めた事業性

融資の拡大を目指す。一方、今年11月に3店目を出す北星信金（名寄）の主な狙いは、地元から札幌に移った顧客との関係を守ること。既存2店は中心部の大通地区と円山地区にあるが、新店舗は南東部の白石区に置く。子息を頼って北広島や恵庭に移り住んだ預金者にも口座を持ち続け

てもらおうと、利便性を重視した。「人口減は止められない。札幌を拠点とする北海道信金や地銀を含め、競争が激しくなるのでは」とみている。

れない。地元でしっかり営業を続けるためにも札幌で収益を上げた」とする。このほか、大地みらい信金（根室）が来年度にも2店目を出す。15年に初めて開設した札幌駅近くの店舗では、主に高齢の個人客を対象とした資産運用や相続の相談業務が好調で、こうしたニーズをさらに取り込めるとみている。従来の預金者のほか、釧根地区にゆかりのある人や企業との取引を増やしたい考えだ。

ただ、道内各地から人や企業が集まる札幌も、あと数年で人口減少に転じる見通し。金融関係者からは「需要の先細りが不安」との声も上がる。地域金融に詳しい小樽商大大学院の斎藤一朗教授は「近年の信金の札幌進出は、他の金融機関への資金流出を防ぐ意味合いが強い。札幌を拠点とする北海道信金や地銀を含め、競争が激しくなるのでは」とみている。

財政融資資金 貸付額3.6%増 20年度新規

北海道財務局は19日、国

目を引くれんがの新庁舎 岩見沢市 進捗率80%

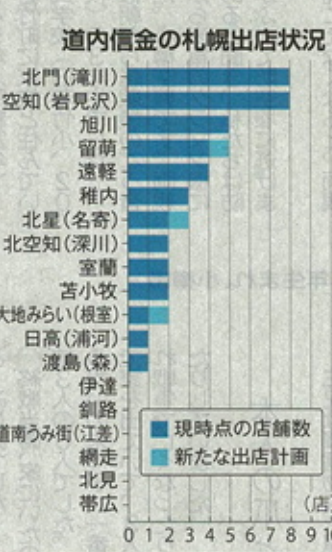
【岩見沢】市が現在の市役所庁舎の隣に建設する新庁舎の外観がほぼ姿を現した。高さ21・2分の外壁は、れんがを重ねた赤みが目を引き、来年1月4日の業務開始に向けて順調に工事が進んでいる。新庁舎は地上4階地下1階、2019年10月に着工し、今年11月に完成予定で、7月末の進捗率は80・5%に達した。外装がほぼ終わって足場の解体が進み、現在は建物内部の壁や床、天井などの内装工事が行われている。防災や災害復旧の拠点として、非常用発電設備用の備蓄燃料や飲料水などは7日分を備える計画で、建物完成後は市民向けに内覧会の開催も検討している。



れんがが目目を引く外観がほぼ姿を現した岩見沢市役所の新庁舎。右は現庁舎

道内信金 札幌にも軸足

地方から転出の顧客狙う



道内の信用金庫で札幌市内に新規出店する計画が相次いでいる。人口の多い札幌に拠点を置くことで預金や融資の拡大を図る従来型の戦略に加え、地域で加速する少子高齢化を踏まえ、札幌に転出する顧客向けのサービス維持に軸足を置く新たな動きも出てきた。ただ、札幌市の人口も2025年ごろをピークに減少に転じると予測されており、競争が一段と激化する可能性もある。

「札幌の店は一番の稼ぎ頭。情報が集まる中央区への出店で『点から面』の営業戦略を進めたい」。来年2月に5店を出す留萌信金の担当者はこう話す。初の進出は1990年。札幌の既存4店だけで全体の貸出金の5割、預金の2割を占める。「信金の中では進出が早かったのが営業基盤はできている」といい、アパートローンを含めた事業性

融資の拡大を目指す。一方、今年11月に3店目を出す北星信金（名寄）の主な狙いは、地元から札幌に移った顧客との関係を守ること。既存2店は中心部の大通地区と円山地区にあるが、新店舗は南東部の白石区に置く。子息を頼って北広島や恵庭に移り住んだ預金者にも口座を持ち続け

てもらおうと、利便性を重視した。「人口減は止められない。札幌を拠点とする北海道信金や地銀を含め、競争が激しくなるのでは」とみている。

れない。地元でしっかり営業を続けるためにも札幌で収益を上げた」とする。このほか、大地みらい信金（根室）が来年度にも2店目を出す。15年に初めて開設した札幌駅近くの店舗では、主に高齢の個人客を対象とした資産運用や相続の相談業務が好調で、こうしたニーズをさらに取り込めるとみている。従来の預金者のほか、釧根地区にゆかりのある人や企業との取引を増やしたい考えだ。